

Ⅲ 接続期カリキュラム

幼児教育から小学校教育へ

幼児が小学校の生活に移行すると、いろいろな段差を感じて戸惑うことがあります。また、学習に集中できなかつたり、疲れたり、連休明けの頃には登校渋りが始まったりすることもあります。

「接続期カリキュラム」は、幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続を図るためのものです。

接続期カリキュラム (円滑な接続をめざして)																	
アプローチカリキュラム スタートカリキュラム																	
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9月	
アプローチ期(前期)				アプローチ期(後期)				スタート期(前期)		スタート期(後期)							
幼児教育の最終段階:5歳児4月～3月							入	(入学期) (入 門 期)					小学校教育の最初の段階:第1学年4月～7月				
							学	※9月初めも一部掲載									
アプローチカリキュラム							カ	スタートカリキュラム									
<p>就学前の幼児が円滑に小学校の生活や学習へ適応できるようにするとともに、幼児期の学びが小学校の生活や学習に生かされてつながるように工夫された、5歳児の全体的な計画(教育課程を含む)のことで、</p> <p>※アプローチ期の期間は様々な捉え方があるが、台東区では4月～3月の1年間とした。</p>							リ	<p>小学校へ入学した児童が就学前施設などでの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、小学校の授業を中心とした学習へつなげ、主体的に自己を発揮し新しい生活をつくり出していくための入学・入門期の教育課程のことで、</p>									
<ul style="list-style-type: none"> ○5領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)を、総合的に学んでいく ○子供の生活リズムに合わせた1日の流れ ○身の回りの「ひと・もの・自然・こと等」が教材 ○総合的に学んでいくために工夫された環境の構成 ○方向目標 個人内評価 ○一人一人に応じた保育・教育が基本 一人一人の発達の特性を生かした集団での学び 							キ	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科等の学習内容を系統的に学んでいく ○時間割に沿った1日の流れ ○教科書が主たる教材 ○系統的に学ぶために工夫された学習環境 ○到達目標 評価規準内での評価基準による観点別評価 ○学級集団での学びが基本 個性に応じた学び、一人一人のニーズに応じた支援 									
○5領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)を、総合的に学んでいく							幼	○各教科等の学習内容を系統的に学んでいく									
○子供の生活リズムに合わせた1日の流れ							小	○時間割に沿った1日の流れ									
○身の回りの「ひと・もの・自然・こと等」が教材							の	○教科書が主たる教材									
○総合的に学んでいくために工夫された環境の構成							教	○系統的に学ぶために工夫された学習環境									
○方向目標 個人内評価							育	○到達目標 評価規準内での評価基準による観点別評価									
○一人一人に応じた保育・教育が基本 一人一人の発達の特性を生かした集団での学び							の	○学級集団での学びが基本 個性に応じた学び、一人一人のニーズに応じた支援									
○一人一人に応じた保育・教育が基本 一人一人の発達の特性を生かした集団での学び							違	○学級集団での学びが基本 個性に応じた学び、一人一人のニーズに応じた支援									
○一人一人の発達の特性を生かした集団での学び							い	○学級集団での学びが基本 個性に応じた学び、一人一人のニーズに応じた支援									
接続期カリキュラムに関連する台東区の事業・行事等																	
1 幼小連携事業：幼児教育共通カリキュラム開発委員会(カリキュラム事例開発) 区主催研修会(幼児教育研修・幼児教育実技研修・カリキュラム研修等)																	
2 異校種間連携：連携の日(幼小中連携)、合同保育・授業、出前保育等(幼小連携)																	
3 保護者連携：かけはし懇談会(5歳児保護者対象)、家庭教育学級、PTA行事 他																	
4 地域連携：学校運営連絡協議会、コミュニティ祭り、地域と学校園等が連携する行事他																	